

リニア新幹線工事は、 南アルプスの自然豊かな 生態系に大きな影響を及ぼしている

---南アルプスの大井川源流域の自然破壊等についての現地調査報告---

全国労山のリニア問題対策委員会は、2019年9月11～12日大井川源流域で開始されているリニア中央新幹線工事による南アルプスの自然破壊について3回目（2017年第1回、18年2回目）の調査を行った。リニア本体のトンネル工事は、静岡県知事がトンネル工事による掘削土・残土置き場の許可を下ろしていないため行われていないが、工事作業員宿舎、資材置き場、生コンのプラント施設などの工事が行われていた。

畑薙ダムからの林道は、舗装されておらず非常に悪路で普通車でもすれ違うのに苦勞する道路であり、ダンプなどの大型車が来るとバックしたりしてすれ違う場所を探しながらの調査であった。帰る途中運送会社のトラックとすれ違ったとき、すれ違うスペースのところまでバックしていると、助手席から一人おりてきて、「蒸留所に行くのは、この道でいいのでしょうか。時間はどのくらいかかりますか」と訊ねてきた。「1時間ぐらいかかる」と答えると、「こんな道を！1時間も！」と断言し、「ありがとうございます」と断言して走っていった。

このような道路で、リニア新幹線のトンネル工事が行われる。工事が本格化すると、二軒小屋周辺で毎日約480台、樫島周辺で約330台のダンプなどが行き交うことになり、登山者も非常に不便なことになることは必至となるだろう。

具体的な調査結果については、写真も含めて下記に報告する。

記

1. 大井川源流域の西俣・悪沢の上流部の状況

- ① 大井川源流域の東俣と西俣に分かれる、中部電力の西俣発電所に行く道路にコンクリートを打つ作業が行われていた。
- ② 悪沢の上流部には、作業員宿舎が建設される予定になっており、その場所へ電気を供給するために、電柱が建てられ電線が張られていた。



- ③ 作業員宿舎建設予定地には、リニアのトンネル工事の掘削土・残土を運び出すための坑口が二か所掘られるようで、その場所に看板が立っていた。



- ④ 作業員宿舎の建設予定地には、工事資材や作業関連施設があり、作業員宿舎は建設しないように思われた。それは、昨年悪沢のすぐ下の道路が土砂崩れで100メートルほど埋まっていたが、大雨が降ると再び土砂崩れで通行不能になる可能性が大で、作業員が閉じ込められてしまうことから、作業員宿舎は建設しないのではないかとと思われる。



2. 二軒小屋の状況

- ① かつて登山者が泊まることができた登山小屋は、作業員宿舎となっている。玄関には、「作業員宿舎 ※関係者以外立ち入り禁止」の張り紙が貼ってある。作業員宿舎も増設され、各部屋にはエアコンが設置されていた。作業員のための食堂も設置され、賄の女性が泊まり込みで働いている。



- ② 特殊東海フォレストのホームページには、2019 年は一般の方は二軒小屋に宿泊できませんーとなっている。だが、総勢 700 人（サポートの人も含めると

1000 人以上になると思われる) といわれる作業員宿舎の建設次第では、登山者が宿泊できない状態が継続されることだってありうる。

- ③ 建設事務所も建設され、建設作業のトラックや建設資材置き場となっている。

3. 二軒小屋と樫島の間中部の状況

- ① 作業員宿舎建設予になっていた、大木が茂る場所は、大木は伐採されて作業員宿舎が建設で、すでに 4 棟建っている。作業員のための食堂、入浴設備、生活排水処理施設などの基礎工事が行われていた。宿舎はワンルームで三畳ほどのスペースにベッドを置く設備が施されて、簡単な押入れが作られてあった。



- ② 作業員宿舎の生活排水が、大井川源流域の生物多様性に大きな影響を与えるのではないかと危惧されている。

静岡県は 9 月 12、13 の両日、リニア新幹線工事による大井川の水資源や生態系について検討する中央新幹線環境保全連絡会議（今回の連絡会議には J R 東海の宇野護副社長が初めて参加）を開き、県の間接報告書に対する J R 東海の最終回答について協議した。生物多様性の議論では、作業員宿舎の生活排水処理で塩素消毒が行われることに関し、「生態系に影響を与えることがないのか」との質問が出されたが、J R 側は「適切に対応する」「モニタリングを行う」などと、明確な回答をしなかった。

- ③ この付近には、トンネル掘削の残土を運び出す坑口・非常口が予定されている。林道を登って行って探したが、ダンプが通れるような林道ではなく見つからなかった。途中で木が伐採される場所があり、ここにダンプが通れる新たな道路をつくり、残土を運び出すのではないかとと思われる。



- ④ 燕黒沢上流の河川敷には、長さ 800 m、高さ 50 m、幅 150～200 m に亘ってトンネルの掘削土・残土が積み重ねられる予定になっている。そのために河川敷に茂っている大木が伐採される。



静岡県の中央新幹線環境保全連絡会議で、燕沢周辺に積み上げられる掘削土・残土について、ＪＲ側は下流への影響がないとしているが、塩坂邦雄委員（土木学会特別上級技術者）は「何をもって影響がないと判断したのか」とＪＲ側に質問したが、ＪＲ側は即答できず、最終的に「現地の状況からそう判断した」とこたえた。

4. 榎島ロッジ周辺の状況



- ① 榎島には登山者のためのテントサイトがあったが、すでに資材置き場と化していた。テントを張れる場所はあるが、白旗四郎写真館の前の狭い場所にテントを張ることになる。
- ② 白旗四郎写真館は開館しているが１階部分は、資材置き場になっていた。
- ③ 榎島ロッジ周辺のヘリポートの横には、リニア工事のための立派な事務所が建っていた。
- ④ 榎島ロッジには、毎日作業員が約６０名宿泊しているようで、朝食の時作業員の昼の弁当として約６０個が積んであった。



5. リニア署名の促進が必要

「リニア新幹線で南アルプスの自然を壊さないでください」の署名は、現在約 1 万 4000 筆で、目標の 3 万筆達成にはさらに大きな取り組みが必要である。まだ取り組んでいない地方連盟もあるので、3 万筆達成に向け、現地調査の結果についてニュース等で地方連盟・会員に知らせ取り組みを強化することが求められている。

6. 榎島・二軒小屋周辺にテントスペースを設けるように特殊東海フォレストに申し入れることも必要

このままでは、登山基地となっていた二軒小屋や榎島ロッジが、リニア中央新幹線工事に伴って登山者が利用しにくくなる可能性もある。そうなると、南アルプスの様々なルートが登山者が通らなくなることで荒れ果てて、若い世代が登山ルートを利用できなくなることも考えられる。

以上のことから、関係する地方連盟や他の登山団体とも協力して、全国登山として特殊東海フォレスト等への要請も検討していくことも必要である。

以上

【資 料】

J R 回答 静岡県拒否

リニア工事の環境影響

「しんぶん赤旗」2019 年 9 月 14 日【政治総合】

静岡県は 12、13 の両日、リニア新幹線工事による大井川の水資源や生態系について検討する中央新幹線環境保全連絡会議を開き、県の間接報告書に対する J R 東海の最終回答について協議しました。

大井川の水を全量戻すことを求める県に対し、J R 側は「リスク管理などを徹底する」と繰り返すなど、全量戻すことは明言せず、議論が進みませんでした。

難波喬司副知事は、「(大井川の水が全量戻るか分からないまま) 工事を進めるわけにはいかない。県としては受け入れられない」と強調しました。

燕沢に置かれる残土について、J R が下流への影響がないとしたことに対し、塩坂邦雄委員(土木学会特別上級技術者)が「何をもって影響がないと判断したのか」と質問。J R 側は即答できず、最終的に「現地の状況からそう判断した」とこたえました。

生物多様性の議論では、作業員宿舎の生活排水処理で塩素消毒が行われることに
関し、「生態系に影響を与えることがないのか」との質問が出ましたが、ＪＲ側は
「適切に対応する」「モニタリングを行う」などと、明確な回答をしませんでし
た。

今回の連絡会議にはＪＲ東海の宇野護副社長が初めて参加。国交省からも、江口
秀二大臣官房技術審議官（鉄道）が参加しました。

宇野氏は会議後の会見で、「工事を進めるにあたっては、県ときちんと議論した
い」と話す一方、「大井川の中下流域の水のことを心配する人は少ないのでは」と
いう場面もありました。

江口氏は「科学的見地の議論が重要で、（連絡会議は）その点から議論されてい
ると感じる。県とＪＲの議論がかみ合うよう、必要に応じ参加していきたい」と述
べました。